ろくろく

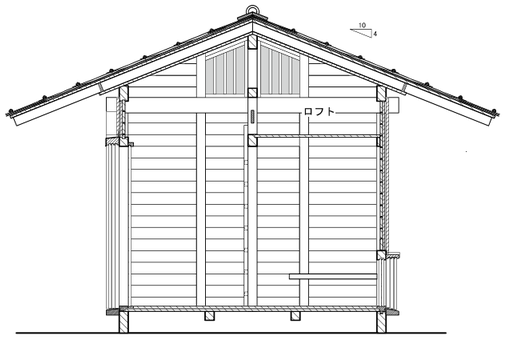
第 13 号

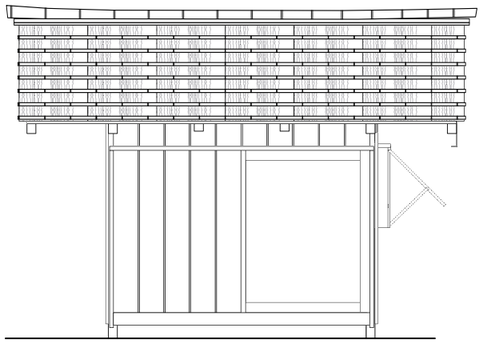
里山建築研究所筑波山麓録

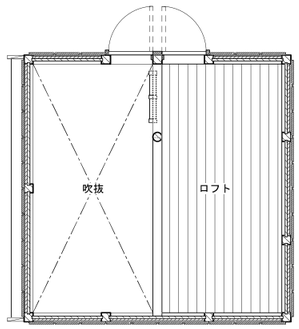
特集
方丈板倉斎 01
板倉の離れ 04
板倉の研究室 06
report・infomation
鳴子こども園 08
ミライス工業ゲストハウス

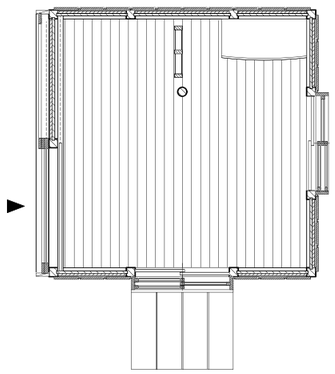
写真：齋藤さだむ

製材所を営む杉岡さんは、その一角に方丈の板倉を建てた
洪水被害を想定し 1.5m の露台をつくり屋根は杉皮葺きとした









DATA　方丈板倉斎
延床面積　9.97㎡
内部仕上げ
　内壁　　スギ落とし込み板現し 30mm
外部仕上げ
　屋根　　杉皮葺き
　外壁　　スギ板目板張り
　建具　　木製建具、しとみ戸

写真：齋藤さだむ

九州北部豪雨の流木でつくった木像が安置される
その上にはロフトが設けられる

８寸角の梯。庇を大きく差し出し妻側の窓にはしとみ戸がつく

柱は板目づかいの割角材。床は木目を現した浮造り仕上げ

内部から遠景を望む。建具は外側に雨戸・ガラス戸、内側に障子

２０２１年初頭に里山建築研究所は、方丈板倉斎を発表した。これは、２０２０年にはじまる新型コロナウイルスの感染症が急速に拡大する状況の中で、新たな分散居住のための板倉の小屋の提案である。大きさは方丈すなわち1丈（３ｍ）四方、軒の高さも1丈（３ｍ）。平安時代末期に鴨長明が、崩壊する平安王朝社会を憂い京都南部の日野山の山中に隠棲の際つくった小さな庵をモデルとしたものである。その名の方丈もそのままいただいた。斎とは、「心身を清めて飲食などの行為をつつしんで神をまつる、いみきよめる、心を静かにして読み書きする室」という意味である。

この方丈板倉に名前をつけようということになり、板倉建築協会の仲間に相談したところ、九州朝倉の杉岡さんから「斎」という名が相応しいのではないかという提案があり、その意味がまさしく今の社会状況においてその意味で役割を果たす願いを込めて名前が決まったのである。

板倉建築協会の会誌「いたくら7号」で構想と詳細な図面を発表し、第一号を杉岡さんからつくりたいと申し出があった。さっそく杉岡さんの製材所の一角に建てるために設計した。杉岡さんには長く製材所を営んできた木挽棟梁としての特別な思い入れがあった。それは日本の山に育っている杉の多様な存在感を表現したいということであった。

折しも２０１７年の九州北部豪雨で被災した当地域で、豪雨によって山林が崩落し、杉の人工林がその元凶にされた風評への憤りもあった。設計を進めるにあたってスギの木取りにも拘った。文化財修理用の材料としてストックされていた樹齢百年を超すスギの大径材、これを挽き割ってスギの持つ多様な表情、力をこの小さな板倉斎に、その割角柱に、梁に、桁に、そして壁板に、床板、天井板に使い分けたのである。あるものは柾取り、板取り、あるものは赤身、あるものは白太、そしてそれが入り混じった源平材、これらが方丈の立方体の小さな空間に散りばめられているのである。それはさながらスギの小宇宙であり、現代日本の杉山の風景を凝縮したものといえる。これはまさしく杉岡さんにしかできない作治といえる。

屋根にも杉皮を葺き、高床の露台に据えられた方丈板倉斎には、「杉」は鎮魂と救荒の木であるという願いが込められている。

板倉の研究室

正面に茅葺きの主屋。手前に板倉研究室。屋根にはソーラーパネルが設置され EV カーへ充電。主屋へも供給する

写真：齋藤さだむ

妻側正面。深い軒に守られた広縁が来客を迎える

主屋には囲炉裏が再現された。地域住民と研究者の交流の場となる

主屋の縁側から板倉の研究室を望む

研究机上部のロフトを丸柱が部屋中央でしっかりと支える

里山風景が広がる筑波山麓八郷地区に小さな板倉の「離れ」が完成した。この離れは２０１７年に始まった筑波大学による「茅葺き民家を活用した地域再生拠点づくり」の一環として整備された。コンセプトは「未来の循環型の暮らしの体験」と掲げられている。当社としては設計から施工まで学生を指導する立場でありながらも、協働という形を目指して日々作業を行った。

設計は学生がコンペ形式にてアイデアを出し合った。1位を投票で決定し、実施設計まですべて学生が担当した。施工はワークショップという形をとりながら、木材加工、建て方、内外装、外構まですべての工程に学生が参加した。プロジェクトリーダーの山本幸子先生は「板倉構法や木造建築について肌で感じることができたと共に、建築をつくるプロセスに参加することで場所や建物に対する愛着を育むことができたように感じている」と話す。

離れは主に研究室として使用する。10㎡と小さくてもロフトや濡れ縁があることで空間が広々と感じられると共に使い道も様々。茅葺き主屋のカーボンニュートラルに対し、離れは太陽光パネルと電気自動車の充電・放電の設備を備えたカーボンオフセットとなっている。

今後、茅葺きの母屋と板倉の離れが一体となりこれから様々な形で活用される。地域社会の課題について研究者や学生と地域住民が交流し課題を探り提言する人材の育成が期待される。

DATA　板倉の研究室
延床面積　9.97㎡

内部仕上げ		外部仕上げ	
内壁	スギ落とし込み板現し 30mm	屋根	ガルバリウム鋼板縦ハゼ葺き ソーラーパネル
		外壁	スギ板目板張り
		建具	鋼製建具、木製建具

板倉の離れ

写真：齋藤さだむ

主屋の庭先に建つ板倉の離れ。主屋の縁側から行き来しやすいよう軒を深くした

上／平面の半分にロフトを設ける
下／右奥が水回り。その左に階段と床下のエアコンの収納スペース

筑波山への参詣道であるつくば道。その起点にあたるのが北条商店街だ。その街並みの一角に、板倉の家が建ったのが4年前。夫婦だけで暮らすこじんまりした家としてつくられたが、3年後にコロナ禍など様々な事情により外にでていた子供たちが戻ってくることになり、家族では不便を感じるようになった。

なんらかの感染症になった際に隔離できないこと、開放的な空間ではオンライン会議が難しいこともあり、小屋を建てることになった。

小屋は、3m（方丈）四方を基本としトイレの分、半畳突き出した間取りとした。屋根は切妻で、東側妻面に出入口を兼ねた大きな掃き出し窓を設けてある。奥の一畳にトイレと洗面室を配置した。切妻の半分をロフトとし寝室として使う。最低限の生活ができるつくりとなっている。

外壁は一尺（30cm）、幅厚一寸（3cm）の杉板を割り付けて張り巡らせたシンプルなつくりである。また、エアコン冷暖気を床下にまわして反対側の開口の際から吹き出して冷暖をとる仕組みとなっている。

この小屋を使い始めてオンライン授業や会議を周囲に気兼ねなくできることが1番のメリットと建て主。「小屋ができてから、以前は家族の間でもけっこう気をつかっていたことに気づきました。また、もう一部屋あるという余裕も生まれました。最小限に家を建て必要に応じて増やすという考え方もありだったと思っています。いずれ小屋は、仕事部屋兼ゲストルームになります。夫婦だけになっても、1人になれる場所として使えると思います。そのもっと後に、必要がなくなったら、欲しい人に小屋ごと譲るのもいいなぁと思っています。」

切妻屋根の主屋は、その南側の庇を大きく伸ばして広縁を設け、庭に開かれている。その先の一角に方丈の板倉の離れが建った。敷地は緩やかな傾斜地である。高低差が数十センチあるため主屋への日当たりや眺めも損なわれない。東側の通りから眺めると主屋と離れは親子のようにつかず離れず寄り添っている。

主屋の縁側から一段低い庭先に離れを望む

report

鳴子こども園上棟

地元産材で園舎づくり

宮城県大崎市鳴子温泉、温泉で有名な山間の小さな町に新しい幼保連携型認定こども園の園舎が上棟しました。老朽化のために建て替えが必要となりましたが、現在も通園する園児たちがいるため、既存の園舎はこれまで通り使用しながら隣の敷地に新築工事を行っています。

今回新たに建築されている園舎は、板倉構法による当社の設計です。使用される材木は、こども園関係者の所有する山林の木材。スギの他にクリやナラ、クヌギ等広葉樹を伐採しました。その際は、こども園の職員らも参加し、戦後植えられた樹齢５０～７５年の木々を約５００本伐採し、それらを製材しました。

保護者等関係者を招いた見学会で「山、製材所、設計者がつながっていないと実現できない仕事。また将来をに担う子供たちのために頑張りたい」と意気込みを語る棟梁の菅原さん。

１期工事終了後、既存園舎は取り壊され、２期工事へと移行する流れです。今回上棟したのは、ホールやランチルーム、事務室などの共用棟で、１０月に竣工後、園児たちはそこへ仮住まいとなります。旧園舎を解体した後、乳児幼児の保育室２棟が建てられ３月末に竣工し、４月からは全体が完成して新築した園舎での生活がはじまります。

infomation

ミライス工業ゲストハウス

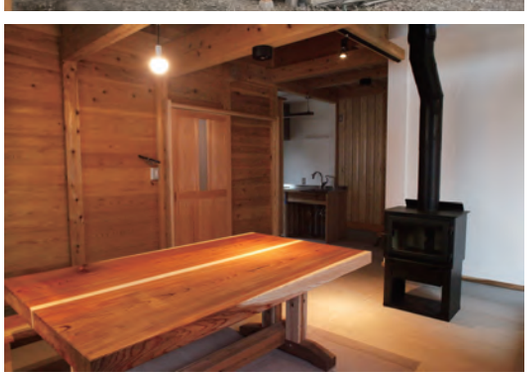
完成見学会のお知らせ

住・食を提供するミライス工業社。自社の従業員用の保養所が間もなく竣工いたします。建設地は、霞ヶ浦の湖畔、周囲は蓮田の広がる自然豊かな環境です。この建物は、ゲストハウスも兼ねており、土間の LDK と水回りを共用し、メゾネット形式の二住戸からできています。今日に求められる多様な利用を想定した設計となっています。

完成見学会を下記日程で開催いたしますのでぜひお越しください。

【場所】茨城県土浦市
【日時】２０２２年９月１１日(土)１２日(日)
　　１０：００～１５：００
【問合わせ】０２９－８６７－１０８６
　　sal@satoyama-archi.co.jp

お申込みの際は、里山建築研究所まで mail もしくはお電話でご連絡ください。



株式会社 里山建築研究所

〒三〇〇－四二三二
茨城県 つくば市 北条一八四
TEL : 029 - 867 - 1086
FAX : 029 - 867 - 1083
URL : https://satoyama-archi.co.jp/
E-mail : sal@satoyama-archi.co.jp

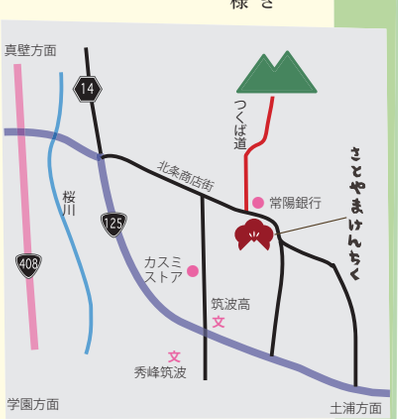
会社概要

里山資源を生かした居住スタイルを探る実践的な試みの場として、筑波山の山裾に開設したのが、里山建築研究所です。

現代の里山に循環を取り戻すべく考案された板倉の家を提案し、時代の趨勢によって変わり続ける民家の現代のかたちを探ることが、私達の試みです。

しごと

設計・設計監理・請負工事
「板倉の家」：新築、改築
「民家再生」：改築、移築
「茅葺き」：葺き替え修繕、新築
「企画制作、調査研究」
「地域づくり支援活動」

編集後記

今回ご紹介した小屋は、同じような大きさですが、その思いや使いかたは多種多様